

編 集 後 記

症例報告のススメ

本雑誌は総説、原著、症例報告から構成されています。なかでも症例報告の占める割合が大きいことが特徴です。そこで、症例報告の医学的意義について考えてみました。

症例報告の医学教育における重要性は、症例報告というでき上がった一つの論文ではなく、それが生み出されるまでの過程にある。最終的に症例報告には値しないと判断されても、それまでの討論は若い医師が疾患概念を把握するのに大いに役立つし、症例報告しようと決めた場合にはそれが医学研究への橋渡しとなるであろう。

〔千葉医学 93: 31-33, 2017〕

実臨床である症例に初めて遭遇したときは、病棟回診やカンファレンスなどで若手医師に次々と質問が集まり、若手医師はそれを解決すべく教科書を調べ、指導医との討論が始まる。この繰り返しのなかで症例の特異性・貴重性を再確認していきます。この時点で既に症例報告が始まっています。症例報告が生まれるこのような充実した楽しいやりとりを大切にしたいものです。

(稻村 昇)